

# 四日市大学 ～世界を見つめ地域を考える～ ピックアップ・トピックス

2011年1月1日発行 vol. 12

【発行】四日市大学 入試広報室  
〒512-8512  
三重県四日市市萱生町 1200  
電話 059-365-6711  
FAX 059-365-6630  
URL <http://www.yokkaichi-u.ac.jp/>

- ・エコジャパンカップ“元気大賞”受賞
- ・二酸化窒素一斉調査

P.1

- ・ジョイントセミナー
- ・経済学部産学官連携フォーラム
- ・リーディング産業展みえ

P.2

- ・経営学特殊講義
- ・サンタ列車運行
- ・四日大エコ活動が「桑名西高校で竹の十三夜」

P.3

- ・第34回気象予報士試験に見事合格
- ・ポスター共同作成と拡大座談会に出席
- ・三重県トラック協会と共同清掃活動

P.4

## エコジャパンカップ“元気大賞”受賞

12月10日、東京都内で環境省・総務省などが後援する「エコジャパンカップ」で市民が創る環境のまち“元気大賞2010”の表彰があり、四日市大学エネルギー環境教育研究会が「伊勢竹鶏物語～3Rプロジェクト～」で奨励賞を受賞した。この賞は、「人・もの・心」の環をつなぎ、広い意味で「環境のまちづくり」をめざす実践的な取り組みや、環境に配慮した斬新かつ具体的な活動、製品開発などを対象としている。

伊勢竹鶏物語は、2009年6月から実施しており、平成21年度環境省の「循環型社会地域支援事業」にも採択されている。プロジェクトの内容は、間伐などで不要になった竹を微粉碎し、それに地元の企業の保有する特殊な細菌（アライ菌）を混ぜて発酵させて飼料を作ったり、堆肥として活用したりするもの。卵は安全性も高く、弾力性にも富んでいるなどの特徴を持ち、県内の洋菓子店や老舗旅館などでも利用されている。

また、この活動は、生物多様性条約第10回締約国会議の「COP10 サイドイベント・持続可能な経済社会活動に関する事例発表会～生物多様性と循環型社会～」(10月19日)でも紹介された。当日は環境省選定による2つの事例が紹介され、その一つに四日市大学エネルギー環境教育研究会が実施しているプロジェクト「伊勢竹鶏物語」が紹介された。研究会の会長を兼ねる環境情報学部新田教授は、「本プロジェクトが省資源や環境保全に役立つだけでなく生物多様性にも寄与する。」と説明した。会場では、約100名の入場者が新田教授の講演に熱心に耳を傾け、外国人参加者からの質問もあった。



## 二酸化窒素一斉調査

12月7日、環境情報学部の大気汚染調査研究会は、四日市周辺の1,000ヶ所で二酸化窒素(NO<sub>2</sub>)の一斉調査を実施した。この調査は、本学の学生、教員に加えて、県内3つの県立高校(四日市商業・四日市中央工業・四日市農芸)の皆さんや市民団体の方々にもご協力をいただいた。

この調査は、一年前に本学学生らが市内300箇所で行った調査を引き継いだものである。また、高校教諭からも「環境学習に生かしたい」との申し出もあり、今回の実施となった。参加者の人数は、総勢420名でカプセル設置を分担。測定のためのカプセルは高さ5cmと小型。自宅周辺の野外に24時間置き、内部のろ紙に吸収したNO<sub>2</sub>の量を測定した。

今後、この調査は年1～2回、10年間程度実施し、全国の他地域とも比較しながら車や工場の影響などを見る予定。参加した学生は、自分の身近なところから環境に関心をもってもらえれば嬉しいと話した。

## ジョイントセミナー

総合政策学部の岩崎・小林両ゼミの学生18人が、11月26日から2泊3日の日程（千葉県館山）で開かれたジョイントセミナーに参加し、合計4本の研究発表を行ってきた。ジョイントセミナーは、本学と、早稲田・法政・拓殖・宇都宮・中央学院の計6大学の、地方自治などを学ぶゼミの合同合宿である。

ジョイントセミナーでは、各大学からの全ての研究発表の中から優秀なもの数本が、毎年、表彰されている。昨年は、本学の研究発表のうち1本が、準グランプリを受賞したものの、グランプリ（最優秀賞）を逃していることから、今年はグランプリの受賞を狙っていた学生もいたようだが、結果は、グランプリ（1本）・準グランプリ（2本）に次ぐ敢闘賞1本の受賞のみ。特に賞を逃した学生たちにとっては悔しい結果となった。

だが、他大学の学生と、研究成果を発表し合い、お互いに意見を交わし合う、普段なかなか体験できない貴重な場で、感じ取れたことも多かったのではないだろうか。時に衝突しながらも、共に研究を進めてきたことで深まった仲間との絆も、大きな財産になるだろう。今後、学生諸君が、この経験を活かしていってくれることを期待したい。



## 経済学部産学官連携フォーラム

四日市大学経済学部では、「グローバル人材の育成と活用」を考えるフォーラム（「どう育成する？どう活用する？グローバル人材」）を10月8日に開催した。経済のグローバル化や新興国の経済成長が著しいなか、グローバル人材が新たなテーマとして重要になりつつある。当日は産業界や企業・自治体などたくさんの来場者があった。フォーラムでは、後援いただいた中部経済産業局や社団法人中部産業連盟の基調講演をはじめ、グローバル経営に直面する企業、就職支援を行う大学や人事担当者、「アジア人財資金構想」や「グローバル30」を推進する経済団体や大学、さらにはグローバル企業で活躍する本学卒業生やグローバル企業に内定した在学生の体験談など、多彩な方々にお話いただいた。

学生達は、異文化を理解する姿勢や、日本では考えられない困難に直面してもめげないバイタリティが必要なこと、しかしグローバルな視野をもつことで人間的に成長できるきっかけにもなることなど、とてもたくさんの刺激を受けたよう。これからグローバル展開を考える企業にとっても、有意義なフォーラムだった。

フォーラム後の意見交換会では、熱心に質問する学生も見られた。今後とも様々なテーマで、地域企業と学生・教員が懇談するフォーラムを開催していく予定。



## リーディング産業展みえ

11月5日～6日、四日市ドームにおいて2010年度のリーディング産業展が開催された。主に県内で事業を展開している213の企業や大学、民間団体などが6つのテーマに分かれて出展した。

今年も四日市大学は中部原子力懇談会と共催で、Bブロックに出展した。当大学は「幅広い教養と専門技術を用いて環境問題に対処できる人材の育成」を2枚のパネルに展示し、中部原子力懇談会は「原子力の開発・利用と知識の普及・啓発」ならびに「放射線利用の促進と技術支援」を約10枚のパネルに、また蒸気発電の模型を展示した。

展示ブースには環境情報学部新田義孝ゼミの学生が立ち、展示物の説明を行った。

## 経営学特殊講義

四日市大学経済学部では、10月29日公開講座「経営学特殊講義」を開催した。講義には、県内外の若手経営者を3名招き、「企業が求める人材」をテーマに意見交換し、これから就職活動を迎える学生たちに社会人になるための心構えなど伝えた。パネリストからは、「自分で考え、行動することを習慣にし、自己管理できる人間になってほしい」、「会社のルールを守り仲間意識をもつこと。また、コミュニケーション能力が大切」、「健康で遅刻や欠席をしない。面接のマニュアルよりも、自分自身の意見をしっかりと伝えることが大切」など就職難の時代をたくましく乗り越えてもらいたいと心のこもったアドバイスがあった。参加した学生たちは、経営者の声に熱心に耳を傾けていた。

## サンタ列車運行

12月23日クリスマスを前に総合政策学部では、三岐鉄道北勢線でサンタ列車を走らせた。運行は西桑名駅から阿下喜駅までの区間で7本運行。列車には、学生たちによるクリスマスデコレーションが施され、参加した約700人の子供たちも大喜びだった（保護者あわせると約2,000人が参加）。

これまでは、(株)三岐鉄道のご協力を得て、総合政策学部は「経営戦略論」の講義を開講してきたが、今年は、昨年までの経験を踏まえ、イベント列車の運行の検討を進めてきた。検討の結果、将来の乗客となる子どもたちに乗車してもらう機会をつくろうと、三岐鉄道北勢線で「サンタ電車」を走らせることになった。北勢線は三重県の北部を走る電車で、少しでも多くの人に利用していただく機会を増やし、地域活性化につなげていくというのが狙い。

当日は、サンタクロースに扮した学生たちから、プレゼントを受け取る子どもたちの笑顔が列車の中で見られた。四日市大学鉄道研究会が、サンタ電車にちなむ写真コンテストも実施し、サンタクロースと一緒にサンタ列車の前で写真を撮る家族連の姿も見られた。



## 四日大エコ活動が「桑名西高校で竹の十三夜」

「美し国おこし・三重」の主催する「桑西・竹の十三夜」が10月20日(水)に桑名西高校周辺で行われ、四日市大学から四日大エコ活動の学生と教員メンバーが参加。この取り組みは、地域の絆づくりを目指す「美し国おこし・三重」が、パートナーグループであり地域の竹林管理と里山復活を目指す「桑竹会」と共同で企画し、桑名西高校を始めとする多くの地域の方々の協力で実現した。

四日大エコ活動は、「美し国」の地域担当主査の川地氏と打ち合わせを行い、1か月前から桑竹会の代表の方のお宅などで竹材の準備作業を進めてきた。当日は、旧暦の9月13日で十三夜にあたったが、残念ながら曇りがちで、見事な月を見ることは出来なかった。夕方から桑名西高校生や地域の方々が西高校に大勢集まり、イベント開始のムードが高まった。

西高校内では、竹製の楽器レイン・スティックの制作が行われ、来場者も参加して楽しんだ。レイン・スティックは竹などの植物の筒の中に小石や砂を入れて、筒を振ることで、雨のような効果音を出す楽器。日が暮れるに従い、高校前の階段などに設置された竹灯籠内のロウソクの灯りが目立ち始め、幻想的な雰囲気を作りだされた。この階段下の自然竹林内は、竹灯籠1,300個ほどで見事にライトアップされた。日が完全に暮れた頃に、音楽家GORO氏の民族楽器を使った演奏会が始まり、竹製のディジュリドゥ(アボリジニの楽器)の低い音色が竹林の中を流れ、その後、カリンバ(アフリカの楽器)、各種の口琴の演奏などが行われ、民族楽器の優しい音色とGORO氏のパフォーマンスに会場は盛り上がった。

## 第 34 回気象予報士試験に見事合格

2010年8月29日に実施された今年度第1回目の気象予報士試験において、環境情報学部環境情報学科2年生の田中勝利君は、合格率6.2%（合格者298人／受験者4,787人）の難関を突破して、見事合格した。

気象予報士とは、平成5年5月に改正された気象業務法の規定により、気象庁長官の許可を受けて予報業務を行おうとする者のことで、試験には学科試験と実技試験がある。学科試験は15問中11問の正解、実技試験は満点の64%以上が合格基準。

合格した田中君は、「気象予報士という資格は、小学5年生の時にテレビ番組で知った。生まれも育ちも自然豊かな環境に恵まれ、物心がついた時にはいつも空を眺めていた。高校を卒業すると、通信講座などを利用して本格的な受験勉強を始めた。大学の講義やクラブ活動が大変でしたが、地道な努力の積み重ねで『合格』を勝ち取ることができた。今後はさらに知識と技量を身につけて、社会に貢献できる気象予報士を目指して頑張ります！！」と、感想を寄せてくれた。

## ポスター共同作成と拡大座談会に出席

10月2日、3日に行われた桑名市「美し国おこし・三重」実行委員会主催のイベントに、四日市大学の経済学部および環境情報学部の学生10名が参加した。

2日午後は、慶應義塾大学環境情報学部の加藤文俊研究室の学生や桑名市内の高校生とともに、「人と地域のきずな～桑名の業人（わざんと）再発見！！～」をテーマに、1チーム2人～3人の17チームに分かれ、地域に愛着を持って業を営み、地域の生活や文化を支える方々17人を約2時間かけてじっくりと取材した。その後、宿泊地であった桑名別院本統寺にてポスターの編集作業を行い、翌日13時30分から桑名市役所で行われたポスターの制作発表会で、取材をした人の「生き方」や「仕事」に対する考え方などをどのようにポスターに反映させたかを熱く語った。

他大学学生との交流、地域を支える人々とのふれあいは、四日市大学の学生にとって非常に刺激のある貴重な経験になったよう。

ポスター作成発表会後の拡大座談会でも、桑名市住民の多くの人たちと共に「ふるさととは自分にとってどんなものか?」、「ふるさとに自分達ができることは何か?」について活発な意見交換を行った。

## 三重県トラック協会と共同清掃活動

10月8日、三重県トラック協会と所属企業の方々と四日大エコ活動（正式名称：四日市大学環境協働活動会議）の学生メンバーが、国道23号線の塩浜と大里交差点で清掃活動を行った。

参加は、環境情報学部4年生の村井丈仁君が四日市市環境保全課の主催する会議で企業の方々と知り合いになり、三重県トラック協会から今回の活動に誘われたことがきっかけ。

全体の参加人数は30名ほどで、四日大エコ活動からは村井君を含む4名が参加した。ゴミは車からの投げ捨てのものがほとんどで、プラスチックや缶などが多く、全部で30袋ほどのゴミを拾った。運転者のマナーの向上が望まれる。



※ 今までに発行された Pick Up Topics が、ホームページからご覧いただけます。

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/examinee/topic.html>

又は 四日市大学トップ→大学案内→ピックアップ・トピックス